様式２

令和５年度　不登校支援研究校　報告書　国泰寺中学校

1　学校の課題

※データ等を基にした学校の課題

本校は不登校傾向の生徒が毎年多く、昨年度30日以上の欠席がある生徒は計78名、この内、新2年生と新3年生の生徒数は53名である。今年度、「ふれあいひろば」の利用を考えている新2・3年生の生徒は令和5年6月時点で25名であり、新入生においても小学校時点で欠席の多かった生徒が多数おり、現在「ふれあいひろば」への入室を希望している生徒も存在している。

こうした不登校傾向に至る原因や背景は「学業の不振」「生活リズムの乱れ」「無気力、不安」だけでなく、生徒自身やその家族も十分に把握できていない場合など多岐に渡っている。そのため、学習支援や社会的自立に向けた支援等もそれぞれで違うため、限られた時間や教員数の関係上、各生徒に適切な支援が十分にできない場合がある。

また、ある生徒は「しばらくはみんながいる教室で過ごすことが難しい」と考えているのに対して、その保護者は「早くみんなと教室で過ごせるようになってほしい」といった思いがあり、生徒とその保護者の思いに乖離が生まれて、学校として適切な支援の在り方や方向性に悩むことがある。

2　研究主題

１人１台端末（ICT）を活用して生徒の心や体調の変化を把握すること（「心の天気」）を通して不登校（傾向）生徒への早期発見・早期支援を行う。

3　重点取組

※１の課題解決に向け、重点的に取り組む項目

(１)　ミライシードのオクリンクを活用し、生徒全員に「心の天気」カードを送り、現在の心の状態を表現してもらう。

(2)　生徒が提出したカードを教員が把握し、心の変化があった生徒への早期アプローチを実施する。

4　具体的な取組

※３の具体的な取組

(1)毎日午前8時33分～35分の間に生徒はミライシードのオクリンクに配布されている「心の天気」カードを記入し担任に提出する。

(2)担任や学年主任、副担などは生徒が提出した「心の天気」カードを毎日確認する。

(3)提出された「心の天気」で涙マークにチェックをした生徒には、すぐに学年教員が声かけを行い、涙マークの理由や現在の心境の確認を行う。

５　検証結果

※検証方法および結果

検証方法
（1）「心の天気」でミライシードを使うことで日々の変化を、担任だけでなく、学年主任や学年所属の副担任など全教職員が確認することで生徒の心境を見取る。
（2）個人の情報が日々蓄積されるため、データが蓄積されることで、気分の浮き沈みのパターンを見取ることができる。

検証結果
（1）担任だけでなく、多くの教職員の目で生徒の心の状態を知ることはできた。また他の学級の様子も知ることができた。教員とのコミュニケーションがうまく取れない生徒や、なかなか発言しない生徒にとって、コメントをつけて提出してくれるとコミュニケーションを構築するきっかけづくりとなり、生徒の日々の変化について確認をすることができた。一方で、全教職員が閲覧することは可能でも、学級によれば重要なことが書かれていないことも多く、その他の業務に時間がとられて確認することができないときもあった。
（2）毎日行うことにより、例えば週明けや週末など生徒によっては気持ちのパターンを見取れることもあった。一方で、ミライシードの特性上、知りたい生徒のみの日々の変化を一度に確認する方法がなく、ミライシードを見ながら教員が別紙に記録をとり一覧を作成する手間が生れた。

６　研究成果

※成果・課題等

「心の天気」の成果については、生徒の心情をイラストで確認することができるのでわかりやすい部分があった。また「心の天気」をきっかけに教員と生徒のコミュニケーションツールとして活用できる部分もあった。

一方で課題として、実施時間の捻出がある。本校では朝読書の10分間のうち、終わり2分間をこの取組時間にあてたが、分単位で細かな日程が組まれている今の日課に新たな取組を加えることは非常に困難だった。タブレットの準備やタブレット使用後に不正使用をする生徒がみられ新たな生徒指導の事案が生まれる場合もあった。毎日のタブレット準備や片づけ、「心の天気」シートの用意などその手間のわりに効果が十分に感じられないという意見もあった。また毎朝の「心の天気」の確認に気を配ってはいたが、その他の業務に追われて確認が十分でない場合もあった。実際にいじめ事案と認知された被害生徒の心情が「涙マーク」だったにもかかわらず、当日は見落としていたこともあった。

1人1台端末（ICT）を活用することで心や体調の変化を把握することは可能だが、これまで行っていた生徒の日記（本校ではデイリーライフ）との違いや日記の代わりにミライシードを使う有効性を十分には確認できなかった。今回はミライシードによって生徒の様子を確認したが、生徒一人一人の毎日の様子を一覧で確認できるソフトなどがあれば、今回の課題のひとつは改善できると考える。